

<図・写真>



<材料・製作方法等>

- ・縦45cm×横20cmの板 1枚
- ・縦40cm×横9cmの板 2枚
- ・角材 1本
- ・滑車
- ・紐
- ・あおり止め

紐のついた輪を放すとエサが水槽に入る。水槽が見えるように横からの動きができるように滑車を着けることで、スムーズな動きができるようにした。また、握る準備が十分にとれるように、あおり止めで固定できるようにした。

<ねらい>

- 生単などで、輪のついたひもを放す活動をしていたため、同じ動きでエサをあげることができる。
- エサをあげる様子を見ることができる。

<指導方法・留意点等>

- ・目線の高さに合わせた場所に配置する。
- ・エサが水槽に入る様子が見えるようにする。
- ・エサをセットしてから、あおり止めをして、輪を握るようにする。
- ・重りを置き、マシンが倒れないようにする。

<指導経過・成果・課題・展望等>

メダカの水槽を集中してみるMさんは、作業学習でメダカの飼育班になった。週に1回の作業学習で、スイッチで水槽にエアーを送ったり、ポンプで水を吸い出して水の入れ替えをしたりした。

メダカのエサやりでは、水槽が見えるように、横からの力のできるように、滑車を着けた。Mさんは、最初、紐のついた輪を放すのに時間がかかることもあり、指を1本ずつ教師と放して、やっと放すことができることもあった。週に1回の活動だったが、繰り返すことで、自分で指を放し、スムーズにエサをあげることができるようになった。また、できたときの教師の「やったー！」の言葉にできた喜びを感じることができるようになった。

作業学習の内容が、リサイクル活動になったことで、メダカのえさやりマシンの活用がなくなりそうだったため、同じ動きのできる活動がないかと考え、シュレッターに紙を入れるマシンに変更した。今後、活用しやすいように改善していきたい。